

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4270202825		
法人名	医療法人社団真友会 藤井医院		
事業所名	医療法人社団真友会 藤井医院 グループホームみどり	ユニット名	しずく
所在地	長崎県佐世保市中通町17-22		
自己評価作成日	平成29年2月4日	評価結果市町村受理日	平成29年3月23日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://ngs-kaigo-kohyo.pref.nagasaki.jp/kaigosip/Top.do">http://ngs-kaigo-kohyo.pref.nagasaki.jp/kaigosip/Top.do</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	一般財団法人 福祉サービス評価機構		
所在地	福岡市中央区薬院3-13-11 サナ・ガリアーノ6F		
訪問調査日	平成29年2月13日	評価確定日	平成29年3月14日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>ご高齢の方が多いのですが(最高齢105歳)、毎日活動的に過ごされており、活気と笑顔が絶えません。職員一人一人が、それぞれ得意・不得意をカバーし合いながらチームワークで利用者様のケアに努めています。</p>
---

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>“グループホームみどり”は複合施設であり、母体の藤井医院との医療連携も密に行われている。28年度は職員の退職や異動、幹部体制の変更もあり、施設長、副施設長(介護支援専門員)、両ユニットの主任や副主任を中心にホーム運営の検討を続けてこられた。人員体制が限られている中、ご利用者個々の楽しみを見つける取り組みは継続し、プランターに花や野菜を植え、栽培や収穫を楽しんで頂いたり、家事の手伝いや趣味活動をして頂いている。28年度は「第1回みどり文化祭」を開催する事もでき、地域の子供達や近隣住民、家族を招待し、施設(各事業所)の取り組みを知って頂く機会になった。外出の機会が減少していた時期もあったが、今後は花見等の機会を増やしていきたいと考えており、ご利用者個々の行動の背景にある原因を見つめ、ご本人の立場に立った最適な解決方法を見つけていく予定である。</p>
---

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

## 自己評価および外部評価結果

自己	外部	自己評価		外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	朝礼時理念を復唱し、また、フロアにも掲示し常に意識したうえで介護に努めています。	理念にある「ひとりひとりの声に耳を傾け、その人らしさを大切に生活を送れるよう…」に努めており、「ご利用者の気持ちに寄り添う」と題して勉強会も行われた。表情やしぐさ、言葉遣い等に注意しており、今後も更に、ご本人の立場に立ったケア内容を追求していく予定である。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	運営推進会議において情報を共有し、お互いの行事に参加出来るよう調整を行っています。また、町内清掃や町内自治会通常総会に参加しています。	地域の加齢大会等に職員が参加し、地域の方と交流している。中学生のボランティアを受け入れ、ブラスバンド演奏等を楽しまれたり、小学生の体験学習も受け入れている。子供会行事の笹祭りの時は、ご利用者も子供達に水かけを行い、一緒に楽しまれた。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議、家族会にて認知症の方の理解や、支援方法を課題にあげ取り組んでいます。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ご入所様の状況や活動報告を行い、指摘や意見をいただいたところは課題として取り組んでいます。※事業所側とは異なる視点や教え方、捉え方等、貴重な意見をいただける機会となり反映しています。	ホームの取り組みや職員配置等を報告している。外部評価結果も報告し、参加者の方から「みどりはいいよ」「みどりに入りたい」等のお言葉を頂いた。地域活動(カローリングやグランドゴルフ等)の活動状況を共有し、地域の実情の情報交換も行われている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議の報告を行っています。介護保険の更新、変更といった書類の手続きについても丁寧な受付をして頂いています。	市の担当者とは更新申請時等に挨拶をされており、人員体制の相談時も適宜アドバイスを頂いている。運営推進会議で地域包括の方から地域の活動(認知症カフェや介護予防、総合事業)等を教えて頂き、認知症の家族支援等に関する情報や体操等も教えて頂いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	定期的に身体拘束排除委員会を開催しており、また、研修会等へも積極的に参加、発表する機会を設けました。	接遇・身体拘束排除委員会で研修を行い、入居者の気持ち(心)に“いかに寄り添うか”等の事例検討が行われている。不穏になれる時は原因を把握するように努めており、個別の寄り添いを続けている。	転倒予防のための方法を検討してこられた。今後も更にアセスメントを見直し、転倒に関連する真の原因や、ご本人の立場に立った最適な対応方法を検討していく予定である。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修や勉強会で学ぶ機会を設けています(実施と発表) 職員一人ひとりの意識が必要であり(意識向上に努め)ケアへの反映に繋がっています。		

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在活用はしていません。 学ぶ機会を設ける必要があります。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	すべてにおいて必ず説明を行い、不明な点、質問、意見がないか尋ねています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱を設置しています。 運営推進会議、家族会、面会時、日々の会話などでの意見は反映して行っています。	日頃の暮らしぶりを3ヶ月毎に手紙に書き、家族にお送りしている。面会時は笑顔で声かけし、要望を伺うようにしている。3ヶ月に1回、家族会を行い、要望を伺うと共に、家族同士の交流の機会になっている。終末期等の不安も聞かれ、その都度、個別の話し合いを続けている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月の全体会・フロア会で意見交換を行い運営に反映させています。	職員の意見を大切にされている。効率的なミーティングを行うために、ミーティング専用紙が作られ、検討議題を記入し、会議前に全員が議題を把握できるようにした。薬のセット方法も検討するなど、業務改善に向けた取り組みが行われている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	資格取得の為の環境や各種手当での整備、希望休等もなるべくとれるように配慮しています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修への参加を勧め、研修報告行い、全スタッフが情報を共有出来るようにし、スキルアップ(介護技術、知識の向上)に努めています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同一法人のグループホームとの交流やグループホーム連絡協議会に参加し、地域で定期的に合同研修を実施しています。		

自己	外部	自己評価		外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人の意向を傾聴すると共に、職員間での情報共有も図り、心身の状態把握を行っています。また、信頼関係の構築の為、コミュニケーションを多くとれるよう努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	より良いサービスが提供出来るよう、面会時等は積極的にコミュニケーションをとるようにしており、また、ご家族様から意見、要望がでた場合はサービスに反映出来るよう対応しています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人、ご家族の意向を伺い、または相談をし、より良いサービスが提供出来るように努めています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	人生の先輩として、また、昔ながらの生活の知恵等を教わり、学び、日々暮らしを共にしています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	一緒に食事会や行事に参加していただいたり、外出、外泊、病院受診等の支援をしています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	いつでも、どなたでも気軽に訪問していただけるよう雰囲気作りに努めています。	家族とお墓参りや美容室に行かれる方もおられる。知人の方が誕生日にお花を持って来て下さったり、別のフロアーに生活する知人との交流も続けている。入居前に利用していた通所介護を訪問し、知人との再会を楽しまれたり、電話や手紙のやりとりをされている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ご利用者同士の会話や行動を見守り、必要時は職員が仲介し、共通する話題等を提供し、コミュニケーションをとれるように努めています。		

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	終了しても、いつでも訪問していただける事や、相談、支援の受け入れが出来る事を伝えています。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	各担当のご利用者様とコミュニケーションを密にとり、意向の把握に努めケアに取り組んでいます。	ご利用者の日々の表情や声のトーン等からお気持ちを察するようにしている。ご利用者の生活歴や趣味等を把握し、基本台帳に記載している。日々の生活の中で「外に行きたい」「ドライブがしたい」等の要望を叶えるようにしており、野菜作りが得意な方は「ペランダ」で農園作業をして頂いている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族様、主治医、知人、面会時といった多方面から情報を得て把握に努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの生活パターンを把握し、出来る範囲で個別ケアを実施しながら現状の把握に努めています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	定期的な会議で、意見交換を行う以外にも、随時職員同士で話し合いを設け、介護計画に反映しています。	全職員の気づきや意見を計画に反映し、理学療法士とも連携し、専門的な運動を取り入れている。ご本人の生活歴を活かした野菜作りや裁縫等の趣味活動、外出や買い物等を盛り込み、家族からも苗等を頂いている。	今後も引き続き、アセスメント書式の検討をしていく予定であり、「できること」「できそうなこと」の記録と共に、行動の背景にある原因を記録し、解決策の検討をしていく予定である。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	状態表・熱計表・ケース記録に、毎日きちんと記録し、申し送りノートも活用しながら職員間の連携を図り対応しています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	一人ひとりの状態の変化と共に、その時々にあったサービスが提供できるように努めています。		

自己	外部	自己評価		外部評価	
		実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議を通して、地域との関わりを持ち、地域資源を活用できるよう意識しながら取り組んでいます。また、地域の催物にも参加しています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人・ご家族の希望する医療機関をいつでも受診できるよう配慮しており、心身の情報提供も行い受診できるよう支援しています。	主にケアマネが受診介助し、受診結果は家族と共有している。病状に応じて主治医から家族への説明が行われている。同建物内の看護師や母体医院の看護師とも連携し、点滴等の必要な医療処置が行われ、体調に応じて総合病院等の紹介も行われている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	併設の有料老人ホーム・デイサービスに看護師が常勤している。毎日状態報告を行い、入居様が適切な処置を受けられるよう支援しています。また、同一法人である医院にも連絡し、連携を密にしています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院先の医療機関と情報交換を行い、安心して入院生活を送り、早期に退院できるよう関係作りを行っています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	主治医、看護師の協力体制が十分に得られており、ご利用者様、ご家族様の意向を尊重し、各関係者と連携を持ちながら支援に取り組んでいます。	入居時に「看取りに関する指針」と「重度化した場合における対応に係る指針」を説明し、意向を確認している。主治医、家族、職員が話し合いを多く持ち、最期まで誠心誠意のケアが行われている。往診を受ける事ができ、必要に応じて吸引や経管栄養の管理を行っている。「ケア・整容一覧」を作成し、「美しさを保つ」ケアも大切にされており、28年度も終末期ケアの勉強会が行われた。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルを作成しており、定期的に勉強会を行っています。また、看護師より実践をふまえての指導も受けていますが回数は少ないです。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を日常的に防火管理及び消火、避難訓練等を実施することにより、全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている また、火災等を未然に防ぐための対策をしている	毎日の電気機器の安全確認を行っています。定期的な訓練、勉強会を行う事で体制作りに取り組んでいます。	外部研修に参加し、「異常気象による風水害、防災」の勉強が行われた。運営推進会議の時に災害時の協力依頼をしており、災害時はホームが一時避難場所として利用して頂ける事の説明もしている。災害に備えて非常持ち出し袋等を準備し、医療品や食料、ペットボトルの水等を準備している。	年2回、昼夜想定避難訓練を実施している。今後は更に実際の災害をリアルに想定した訓練になるように検討していくと共に、系列機関(母体の医院とグループホーム)と「災害時対応マニュアル」を作成中であり、協力体制の強化に努めていきたいと考えている。

自己	外部	自己評価		外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	言葉かけには十分な配慮を行い対応を行っています。	職員は今後も引き続き、“自分だったら”“自分の家族だったら”と言う振り返りを続けていく予定である。ご本人の心理を大切に、お手伝いをして頂く時も真意を把握するように努めている。“居室はその方の部屋(家)”と言う意識を持ち、入室時はノックし、排泄時はドアを閉めるようにしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	その都度希望や意向を確認し、自ら決定出来る環境作りに努め、困難である方に対しては言葉かけを工夫したり、表情をみて対応しています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりの状態に合わせ、その方のペースにて過ごせるよう対応しています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	定期的な美容サービスを受けていただき、更衣の際は好みの洋服や季節に合わせたおしゃれが出来るよう支援していき、また、誕生日や行事の時はその方に合わせ、化粧や洋服で楽しめるように対応しています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	好みの味付けで提供したり、味見や盛り付け、調理、片付けを一緒に行っています。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量や水分量をチェックし、食欲不振時は嗜好品や栄養補助食品を取り入れています。飲水量が少ない時は、水分ゼリーを活用し飲水量の確保に努めています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、義歯洗浄やうがいのお手伝いをし、清潔を保てるように支援しています。また、歯科衛生士と連携を図り、異常時はすぐに対応できるようにしています。		

自己	外部	自己評価		外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄表を活用しながら、一人ひとりの排泄パターンを把握しトイレでの排泄を支援しています。	トイレでの排泄を大切にされている。下着(十ハット)の方も多く、ハットの大きさも個別に検討している。羞恥心に配慮し、さりげない声かけを心がけ、居室でポータブルを利用する時は目隠しのカーテンを使用している。トイレまでの自操やスポンの上げ下げなど、ご自分でできる範囲はして頂いている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	牛乳、ヤクルト、ヨーグルト、食物繊維のある食材を取り入れています。また、必要時はセンナ茶を使用しています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	曜日、時間帯は一応決めています。順番やタイミング、状態により柔軟な対応を行っています。	お風呂好きな方が多く、体調に応じて2人介助が行われている。ゆっくり湯船に浸かり、歌と一緒に唄われたり、昔話を楽しまれている。ご本人のお好みの音楽(クラシック等)を流したり、柚子湯等も楽しまれている。入浴を拒まれる方もおられ、無理なく浴室に誘導できるように声かけしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりのペースに応じて、安眠や休息がとれるように、その方々の状態をみながら対応しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	内服薬の詳細をファイルにしており、副作用や注意事項を確認し、定期的な勉強会を行い、服薬に対して意識を高め支援に努めています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	毎日の日課である、茶碗洗いや洗濯物畳み等を継続して行って頂けるように、言葉かけや見守りといった環境作りを行っています。また、プランターに花や野菜を植え、栽培や収穫を楽しんで頂けるよう支援しています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	ドライブ、初詣、四季の花見学、外食等に出かける事ができています。ご家族の協力もあり、外食や外泊へも行かれています。	施設の敷地内を散歩されている。西海橋で外食をされたり、藤山神社や眼鏡岩などにお連れしている。皿山公園(菖蒲)や世知原(紫陽花)などで季節のお花を楽しまれたり、職員と一緒に喫茶店で珈琲を飲まれている。希望に応じた買物や外食にお連れしている。	ご高齢の方も多く、外出の機会が減っている。心身の状況の変化もあり、全員での外出が困難になっているが、今後も職員体制を整えながら、個別の外出を増やせるように検討していく予定である。



自己	外部	自己評価		外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	事務所で預かり金を管理していますが、外出時等は職員介助にて購入して頂いています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族様へ、定期的到手紙や写真付きで状況報告を行っています。また、本人様希望時は電話を使用して頂いています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有空間は清潔感を心がけ、音量及び室温等にも配慮しています。催物の写真や、季節を感じて頂けるように、壁紙や窓際に花を飾ったりしています。	リビングから海や山などを楽しむ事ができ、1つのユニットのリビングから港の花火を楽しむ事ができる。出窓に観葉植物を置いて成長を楽しまれたり、ベランダのプランターで野菜などを育てている。両ユニット合同で風船バレーを楽しまれ、職員手作りのネットが活躍している。1つのユニットは配管臭を感じる時があり、換気等に配慮している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファや畳を設置し、廊下や洗面所にも椅子を置き、それぞれが好みの場所でゆっくりできるようにしています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	以前ご家庭で使用していた家具や茶碗、装飾品などの、馴染みのあるものを持ってきて頂いています。	タンスやソファ、テーブル、テレビ等の他、大切な仏壇を持ち込まれている方もおられ、職員が水やお茶をお供えている。ぬいぐるみや写真、観葉植物等も飾り、ご利用者も一緒に居室の掃除をされている。ご自分の裁縫道具もあり、スホンの裾上げ等をして下さっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室に名前を掲示したり、トイレ、洗面所等にも分かりやすく記載した貼り紙をしています。		